

令和2年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）取組実績

機関・団体等の名称	中国地方整備局（建政部）
-----------	--------------

事業等の名称	工業高校教員及び就職支援教員（JST：ジョブ・サポート・ティーチャー）へのヒアリング
主な対象者	高校生、大学生（保護者含む）
主な取組区分	その他
<p>1. 実施時期 令和2年12月～令和3年3月</p> <p>2. 実施場所 工業高校：県立広島工業高校、宮島工業高校、広島市立広島工業高校（実施済） JST：安芸、大竹、安西、黒瀬、呉商業、府中東、福山商業（実施済） 広島商業、庄原実業、尾道商業、総合技術（実施予定）</p> <p>3. 対象者（参加見込又は参加者数） 工業高校教員及び就職支援教員（JST：ジョブ・サポート・ティーチャー）</p> <p>4. 共催・単独等の開催状況 単独</p> <p>5. 事業等の内容 ・先生への、生徒の就職に対する意識や考え方、活動内容のヒアリング。 ・就職支援をする際に知りたい情報等のヒアリング。</p> <p>6. 期待される効果（実施結果：効果） 生徒や保護者の身近で就職に関して相談を受けたり、情報提供を行っている先生にヒアリングを行うことにより、高校生や保護者が建設業にどのようなイメージを持っているかや、就職するにあたり、どのような点を重視しているかの傾向を知り、今後の取組への活用を図る。</p> <p>7. 運営上の課題と課題解決に向けての検討・提案 近隣工業高校及び就職支援教員が在席する学校（普通科）に出向いてヒアリングを行った。学校の先生方は忙しく、なかなか時間も取れない中ご対応いただいた。普通科の生徒や先生は建設業に対する知識や情報が少ないため、建設業団体等との連携が必要。</p> <p>8. 従前の取組と比較して変更や追加、工夫した内容</p> <p>9. その他</p>	

注1：提出資料は電子データとしてください。

注2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。

問 1 就職支援教員はどのような仕事をしているのか。（生徒への関わり方、職業の進め方など）

- ・ J S T（ジョブ・サブ・ティーチャー）として、毎年県から採用されている。年によって配属（担当）高校は異なる。
- ・ 生徒の希望を聞きながら、情報提供を行っている。
- ・ 生徒や保護者の意向を聞いて求人票が来ているものの紹介。
- ・ インターンシップや卒業生を招いて経験談を話してもらうなど、職業理解への機会の提供
- ・ 進路に悩んでいる生徒を面談。就職は抽象的に考えており、基準が分かっていない。
- ・ 生徒本人の希望を聞き、職種別の働き方や福利厚生などを説明している。
- ・ 一括りに建設業と言っても、よく理解できない部分がある。

問 2 生徒によって向き不向きがあると思うが、特定の業種（建設業）を進めることもあるのか。

- ・ 自己理解と仕事の理解が出来ていない。
- ・ 大手ゼネコンから高校普通科に求人はない。中小からの求人は若干ある。
- ・ 建設業は、求人はあるが手を上げる生徒は少ない。
- ・ 建設業に限らず、就職への気持ちはまだできていない生徒もあり、意識を高めていくのが難しい。
- ・ 建築系の希望者は若干ではあるがいる。（R2内装業 2 名）
- ・ 最近では女生徒は運送業に進むことも多い。
- ・ 求人が多い学校では建設業はスルーされる。製造業の就職が多い。
- ・ 元気のある生徒が建設業関係に就職するケースが多い。
- ・ 就業時間がハッキリしている製造業に就職するケースが多い。建設業は少ない。
- ・ 専門職の就職はない。施工管理系が多い。
- ・ 2 年生を対象に産業会館の中で体験、本人が就職希望先を考える。

〔工業系〕

〔工業系〕

問 3 建設業に対するイメージはどのようなイメージを持っているか。

- ・ 普通科では仕事の内容を理解するチャンスがない。
- ・ 専門的な業種のため、資格や経験なしで受け入れてもらえるイメージがない。
- ・ 3 K のイメージは今でもある。払拭されていない。就職を勧める上で建設業を一番には勧めない。
- ・ こわい、とても出来ないと思い込んでしまう。加えて 3 K のイメージ。
- ・ 技術の進歩により昔と変わってきていると思うが、体力のいる仕事のイメージ（生徒も同様に思っている）。
- ・ 建設業に限らないが、企業が学校のことを知らない。
- ・ 対人力の低い人でも（技術を身につければ）やっていける業種
- ・ 求人も女性採用が増えており、7 ～ 8 割が男女問わず。（男社会のイメージは昔ほどではない）

〔工業系〕

問 4 就職を考える上で、生徒が大切にしていると思われることは何か。（保護者の意見、地元志向、週休 2 日など）

- ・ 休暇制度を気にする生徒は多い。
- ・ 地元志向強い（自転車、公共交通機関で行ける範囲）。
- ・ 保護者の意見は影響力が大きい。
- ・ 保護者が福利厚生面などを含めて安定志向が強い。
- ・ 先輩のススメがあると影響力が大きい
- ・ 保護者が会社のネームバリューを気にする。
- ・ 悩む生徒は保護者の言う方に進む（三者懇談で話を決めて）。
- ・ 建築系の生徒は地元志向が強い。特に女生徒は地元志向。
- ・ 大工のような職人系だと処遇（社保等）の問題もあり保護者への説明が難しい。
- ・ 職人系は師弟関係となりやすく、保護者が黙っていない。

〔工業系〕

〔工業系〕

〔工業系〕

問5 就職を考える上で、生徒の関心が高い仕事（業種）を教えてください。

- ・マツダ・J F E 関連の会社も多く、製造業に進む生徒は多い。
- ・仕事のイメージができる場所を選択する傾向がある。
- ・親類に建設業関係者がいると建設業に進む生徒も僅かだがいる。
- ・体力的に屋外での仕事を避ける傾向がある。
- ・大工になりたいと言う生徒は意外と多い。
- ・残業の多い業種も好まれない。
- ・施工管理やコンサルの関心が高い。
- ・当初は建築士になりたいと言う生徒が多いが、具体的なイメージは持っていない。
- ・大工になりたいといった生徒は意外と多いが求人がない。

〔工業系〕

〔工業系〕

〔工業系〕

問6 建設業を知るうえで、あったら良いと思う機会はどんなものか。

- ・インターンシップなどの職業体験は重要。体験の有無は就職後大きく変わってくる。
⇒体験無いとすぐに辞めてしまう。建設業は特に体験しておくべき。
- ・O B がその業種の話（経験談）をすると影響力も大きいと思われる。
- ・建設業に限らず、仕事へのイメージや資格等の取り方も知らない。
- ・2年生を対象に産業会館の中で体験、本人が就職希望先を考える。
- ・仕事に触れる機会があると、その仕事のイメージがしやすくなる。

〔工業系〕

〔工業系〕

問7 就職を考えるうえで、生徒の情報源となっていると思われるものは何と知っているか。

- ・先輩から情報を入手している生徒もいる。
- ・テレビなどのマスメディアが多いのではないか
- ・担任の先生の影響（アドバイス）は強いのではないか。
- ・最近の生徒はY o u T u b e はよく見ている。
- ・校内で企業説明会を開催している。
- ・2年生を対象に産業会館の中で体験、本人が就職希望先を考える。
- ・求人票による情報が大半。企業から指定校として直接求人のもと、ハローワークからの一般公開求人とがある。

〔工業系〕

〔工業系〕

〔工業系〕

問8 その他、建設業について具体的に知りたいこと、国や自治体に取り組んでほしいこと、業界への提案など、あなたの考えや感じたことを自由に聞かせてください。（知りたい内容・情報、保護者との関係、）

- ・最近の生徒は字を見ない。アニメーション等のほうが興味を持ちやすい。
- ・高校生はどんな仕事があるかを知らない。P R の方法も重要。
- ・普通科の先生は建設業と繋がりが無い（業界の人と会う機会もない）。
- ・建設業のことを担任の先生が知らない。担任の先生へのアプローチは大事（知らないことを生徒には勧めない）。
- ・学校向け案内など、きれい事ばかり書かれている。やっかいな面などもしっかり書いておくべき
（良い面、悪い面の両方を見せておく）。
⇒悪い面を体験したときに、聞いてない、分からないと言って、すぐに離職になる。
- ・案内パンフレットなどのイラストが、男性が描かれていることが多いが、女性も描かれている方が良いのでは。
- ・対応力が低い生徒が増えている。趣味嗜好が変わってきており、楽な方へすぐに流される。
⇒「カッコイイ大人になりたい」がない。
- ・求人票に「職場見学 可」などの記載があるので、希望する生徒は行っている。
- ・高校生から就職した先輩の言葉は響くと思う。
- ・3年生を対象にO B に来てもらって話をしてもらっている。
- ・職人を育てるにはお金がかかる（身銭を切る）。職人育成への支援や補助が行えないか。
- ・今の学生は、見て学ぶのではなく、説明し、理解させることが必要。
- ・工業系は出口が大事。大卒でなくても、高校生にも突破力や対応力が高い生徒もいる。大手企業入職へのチャンスが欲しい。

〔工業系〕

〔工業系〕

〔工業系〕

〔工業系〕

令和2年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）取組実績

機関・団体等の名称	中国地方整備局（24事務所＋5管理所）
-----------	---------------------

事業等の名称	インフラツーリズム（現場見学会＋民間主催インフラツアー）
主な対象者	一般
主な取組区分	現場見学
1. 実施時期	1年を通して実施
2. 実施場所	中国地方整備局管内の工事現場や既に完成した施設（道路・河川・ダム・港等）
3. 対象者（参加見込又は参加者数）	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の対象者に絞っていない。 ・R1年度は、現場見学会が約11,700人、民間主催インフラツアーが約1,400人、併せて約13,100人が参加。
4. 共催・単独等の開催状況	各事務所等での単独開催がメインであるが、民間会社等が企画するインフラツアーと連携することもある。
5. 事業等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・現場見学会 ・民間主催インフラツアー
6. 期待される効果（実施結果：効果）	中国地方整備局における事業への理解及び認知度向上及び建設業界の魅力向上。
7. 運営上の課題と課題解決に向けての検討・提案	現場見学会を対応する職員の確保が課題である。 一案として現場見学会対応を外部委託するなど。
8. 従前の取組と比較して変更や追加、工夫した内容	SNS（facebook、twitterなど）での情報発信（実施結果など）。
9. その他	新型コロナウイルス対策とインフラツーリズム推進の両立を図る。

注1：提出資料は電子データとしてください。

注2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。

令和2年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）取組実績

機関・団体等の名称	中国地方整備局（高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所）
事業等の名称	写真集発行「真備緊急治水対策2年目の記録」 ～1日も早い工事完成に向けて～
主な対象者	一般
主な取組区分	広報誌、新聞、インターネット
1. 実施時期	令和2年11月18日（土木の日）に発行（R3.1.15時点で冊子3,000部印刷）
2. 実施場所	<ul style="list-style-type: none"> 高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所、岡山県備中県民局、岡山県建設業協会にて配布するとともに、各機関のホームページへ掲載 倉敷市真備町の公民館及び分館にて閲覧 倉敷市真備町内のスーパーなど商業施設にて配布
3. 対象者（参加見込又は参加者数）	一般
4. 共催・単独等の開催状況	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県備中県民局および岡山県建設業協会の協力のもと作成 地域の写真愛好家サークルである「フォトマービー」からも写真提供を受ける 写真集「インフラメンテナンス」の写真家である山崎エリナに監修を依頼
5. 事業等の内容	甚大な被害を受けた倉敷市真備町で進めている「真備緊急治水対策」の進捗状況を写真でお知らせするとともに、そこで働く建設業者にスポットを当て、復旧・復興に尽力している姿やその技術者顔写真を一冊の写真集にまとめ一般に公開。
6. 期待される効果（実施結果：効果）	<ul style="list-style-type: none"> 写真集に載ることで、子供など家族や親族に自慢でき、モチベーションが向上 リクルートに使用するなどで、建設業就業者数の維持に繋げる 写真愛好家からの写真提供、写真家の監修などにより、土木業界と縁のない一般の方の関心も高まることで、次世代の地域を支える担い手の確保に繋げる。
7. 運営上の課題と課題解決に向けての検討・提案	<ul style="list-style-type: none"> 通常、工事で撮る写真は施工の証明写真であるため、一般にPRする写真にはほど遠いことから、意識的に映える写真を撮っていただくよう岡山県、業界に要請。
8. 従前の取組と比較して変更や追加、工夫した内容	<ul style="list-style-type: none"> インスタグラムの公式アカウント「takaoda2019」を開設し、日頃から現場で働く技術者の写真を投稿することで写真収集に活かした。
9. その他	

注1：提出資料は電子データとしてください。

注2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。